

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病害虫発生予察情報について

平成24年度農作物病害虫発生予報第9号を発表したので送付します。

平成24年度農作物病害虫発生予報第9号

平成24年10月1日
徳島県

I. 普通作物

普通期イネ

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、県西部において発生圃場率は100%、株当たり寄生虫数は0.12頭であり、平年(22.2%, 0.07頭)に比べてやや高めの発生である。

(2) 9月における予察灯(石井町)への誘殺は、認められていない。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特に西部地域において、10月中旬以降に収穫を迎える作型については、液剤等により防除を行なう。

II. 果樹

カンキツ

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の温州ミカンの巡回調査では、発生圃場率は75.0%で、平年(56.2%)よりやや高めの発生であるが、寄生葉率は2.1%で、平年(6.3%)よりやや低めの発生である。

(2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避ける。

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%であり、平年(49.3%)と比べて高めの発生であるが、発病葉率は3.7%であり、ほぼ平年(5.2%)並の発生である。

(2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1) 発生の多い園では薬剤散布を行ない、早期落葉を防止する。

炭そ病

1)予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠

(1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率は20.0%、発病果率は1.0%であり、平年(11.6%、0.3%)と比べてやや高めの発生である。

(2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

果樹共通

カメムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多く)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) 予察灯への誘殺虫数は、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシともに平年並で推移している。

[予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝					浦					田丁					上					板					田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年
9.1	30	21	6	26	36	1	4	13	4	5	1	4	13	4	5	1	4	13	4	5	1	4	13	4	5	1	4	13	4	5
9.2	88	31	18	6	33	3	8	13	3	5	3	8	13	3	5	3	8	13	3	5	3	8	13	3	5	3	8	13	3	5
9.3	121	19	10	8	22	5	4	14	2	7	5	4	14	2	7	5	4	14	2	7	5	4	14	2	7	5	4	14	2	7
9.4	65	22	12	8	35	7	4	17	12	11	7	4	17	12	11	7	4	17	12	11	7	4	17	12	11	7	4	17	12	11
9.5	36	47	9	44	70	2	5	4	41	16	2	5	4	41	16	2	5	4	41	16	2	5	4	41	16	2	5	4	41	16
9.6		107	2	149	60		5	7	25	12		5	7	25	12		5	7	25	12		5	7	25	12		5	7	25	12

[予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺虫数]

月半旬	勝					浦					田丁					上					板					田丁				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年
9.1	46	27	23	61	87	2	9	12	6	10	2	9	12	6	10	2	9	12	6	10	2	9	12	6	10	2	9	12	6	10
9.2	96	25	44	24	94	4	14	11	0	9	4	14	11	0	9	4	14	11	0	9	4	14	11	0	9	4	14	11	0	9
9.3	86	17	24	9	61	3	13	13	0	8	3	13	13	0	8	3	13	13	0	8	3	13	13	0	8	3	13	13	0	8
9.4	46	9	6	5	83	2	10	5	2	9	2	10	5	2	9	2	10	5	2	9	2	10	5	2	9	2	10	5	2	9
9.5	37	5	13	29	33	0	0	6	1	5	0	0	6	1	5	0	0	6	1	5	0	0	6	1	5	0	0	6	1	5
9.6		17	1	24	21		2	1	1	2		2	1	1	2		2	1	1	2		2	1	1	2		2	1	1	2

(2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(2) 移動性が高いため、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並),発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では,発生圃場率が100%であり,平年(83.2%)と比べてやや高めの発生であるが,発病葉率は18.3%であり,ほぼ平年(21.6%)並の発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わり,平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く,降水量は平年より多く,また日照時間は平年より少ないと予想されており,やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると,薬液が弾かれ防除効果が劣ってくるので,薬剤散布は展着剤を加用し,早めに行なう。
- (3) 落葉した罹病葉は適切に処分する。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並),発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では,発生圃場率は85.7%,寄生葉率は12.4%,被害果率は15.4%であり,平年(62.8%, 4.0%, 4.8%)と比べてやや高めの発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わり,平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く,降水量は平年より多く,また日照時間は平年より少ないと予想されており,やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので,散布むらのないように丁寧に散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では,発生圃場率が28.6%,寄生新梢率が0.4%であり,平年(25.3%, 0.7%)並の発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わり,平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く,降水量は平年より多く,また日照時間は平年より少ないと予想されており,やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,防除の際には,葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では,発生圃場率は57.1%,寄生葉率は3.1%であり,ほぼ平年(46.1%, 6.0%)並の発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では,天気は数日の周期で変わり,平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く,降水量は平年より多く,また日照時間は平年より少ないと予想されており,やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率は50.0%、寄生株率は5.5%であり、ほぼ平年(33.0%、3.0%)並の発生である。
 - (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

コナガ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率は10.0%、10株当たり寄生幼虫数が0.1頭であり、ほぼ平年(15.8%、0.1頭)並の発生である。
 - (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
 - (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

モンシロチョウ

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率は12.5%、10株当たり寄生幼虫数は0.1頭で、平年(12.2%、0.2頭)並の発生である。
 - (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.0%、発病株率が0.02%)。
 - (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。
- (2) 肥切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率は22.2%、50株当たり寄生虫数 0.3頭であり、ほぼ平年(33.2%、2.8頭)並の発生である。
- (2) フェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、9月以降平年並で推移している。
- (3) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。
- (2) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3ヶ月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、葉の被害度が0.8であり、平年(12.0%、0.1)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並~やや少なく(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%であり、平年(99.0%)並の発生であるが、葉の被害度が15.3であり、平年(29.0)に比べてやや低めの発生である。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年より多く、また日照時間は平年より少ないと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月後半におけるキャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では, 発生圃場率が12.5%, 寄生株率が0.5%であり, 平年(51.9%, 8.9%)に比べてやや低めの発生である。
- (2) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は, 平年よりやや少なめで推移している。
- (3) 9月28日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, また日照時間は平年より少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫時に防除を行なう。

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は, 平年並で推移している。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, また日照時間は平年より少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので, 早期発見に努め, 若齢幼虫時に防除を行なう。

オオタバコガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 9月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査5圃場の平均)は平年よりやや多めで推移している。
- (2) 9月28日発表の1ヶ月予報では, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れの日が多いと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, また日照時間は平年より少ないと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

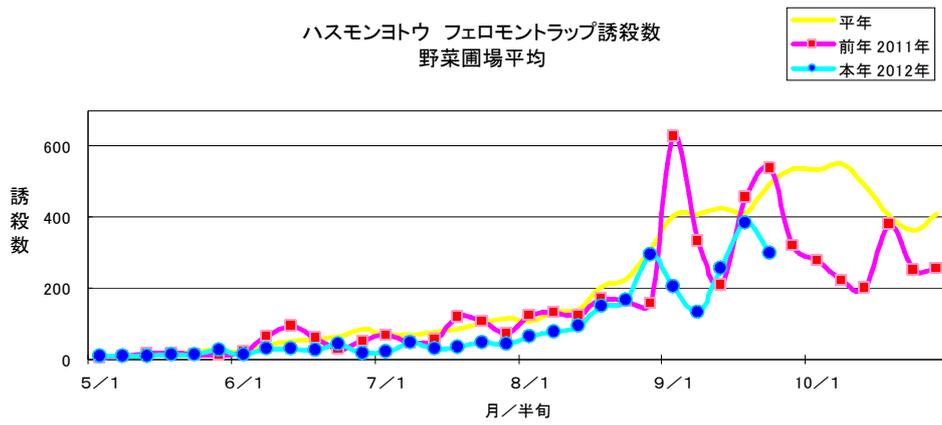
- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので, 使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行なう。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

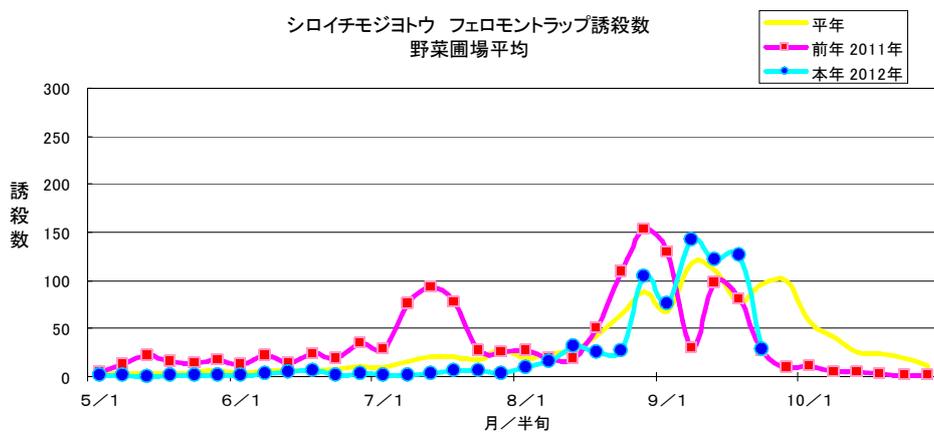
月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2012年	2011年	2010年	2009年	平年	2012年	2011年	2010年	2009年	平年
9.1	204	627	408	199	407	76	130	185	24	68
9.2	133	333	602	277	412	142	29	605	55	119
9.3	258	207	658	308	427	122	97	379	189	111
9.4	382	456	541	194	416	126	81	290	78	78
9.5	297	538	602	168	497	29	27	436	97	96
9.6		320	659	284	538		9	353	179	100

ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



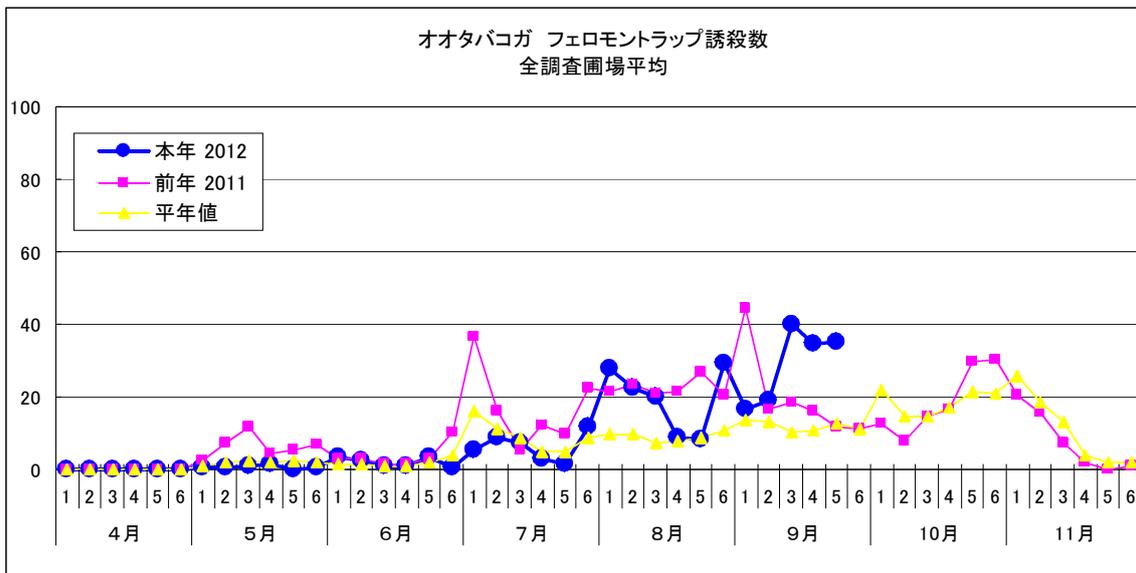
調査圃場：徳島市(川内, 不動), 阿波市(柿島, 香美), 吉野川市(鴨島町), 石井町, 東みよし町加茂

シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数
野菜圃場平均



調査圃場：徳島市(川内, 不動), 阿波市(柿島, 香美), 吉野川市(鴨島町), 石井町, 東みよし町加茂

オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数
全調査圃場平均



調査圃場：石井町, 阿波市(柿原, 香美), 吉野川市(鴨島), 東みよし町(三加茂)

IV. その他

1. ハスモンヨトウをはじめとする食葉性害虫等の発生が多くなる時期です。野菜類の定植後には圃場を見回り、発生が確認されたら速やかに防除してください。

2. 薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守してください。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujosyo/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。